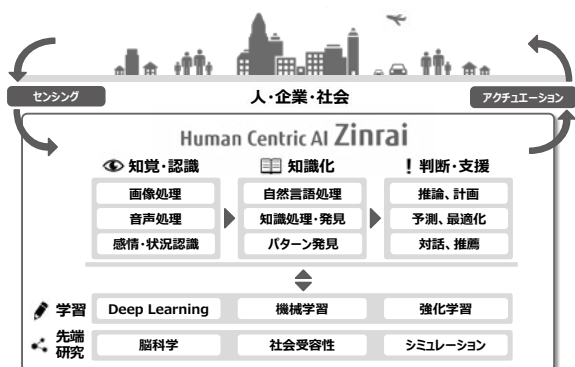


AI (人工知能)

富士通は、人工知能 (AI) に関する知見・技術を2015年11月に「Human Centric AI Zinrai (ジンライ)」(以下、Zinrai)として体系化し、お客様の業務変革やイノベーションの創出に取り組んでいます。「Zinrai」は、人のように五感を駆使して人の気持ちを理解する「感性メディア技術」、人が理解する知識だけでなく機械で処理できる知識を創り出す「知識技術」、スーパーコンピュータなどを活用して社会やビジネス上の課題を数理的に解決する「数理技術」という3つのコア技術を有しています。さらに、日々学習し有益な知識やパターンを導き出す「学習技術」により、継続的に成長していきます。富士通は「Zinrai」により、お客様の経営課題やニーズに対して最適な人工知能の活用シナリオを立案し、お客様と共に価値を創出します。

富士通が保有するAI技術を体系化



Zinraiの特長



■ 主なトピックス

人工知能との協調対話による課題解決

利用者がシステムとの対話を通してサービスなどを利用できる対話技術を開発しました。利用者の発話を高い精度で理解する発話理解技術と、対話履歴などから対話方式を自動的に学習する知識型対話生成技術により、自然な対話処理を実現し、対話を利用した新しいユーザ・エクスペリエンスを創出します。

複雑な時系列データを学習する Deep Learning 技術

これまで画像や音声の領域に限られていた Deep Learning 技術の適用領域を拡大し、既存技術では分類が困難だった IoT / センサーなどが生成する変動の激しい時系列データから、対象の状態や種類を高精度かつ自動的に判断します。これにより、IoT / センサーデータを利用したサービスの安定運用を実現します。

多種多様なデータを統合・知識化し横断的に分析

Web 上の財務情報やソーシャルメディアなどの多種多様なデータを知識化技術により統合します。類似性や異常性を検知する動的グラフネットワーク解析技術を活用して、株価・製品・評判などの企業活動におけるさまざまな情報を横断的に分析し、企業活動の全体像を把握することができます。

■ 体制

お客様の人工知能活用を支援する部門として、2015年11月に「AI 活用コンサルティング部」を設置しました。AI 専任技術コンサルタントが、AI 研究者や技術者、キュレータと共にお客様との PoC (Proof of Concept) や PoB (Proof of Business) を通じて「Zinrai」のテクノロジーをもとに最適な AI 活用シナリオを提案しています。また2016年4月には、富士通研究所内に最先端の AI 技術の研究開発センターとして「人工知能研究センター」を設置しました。富士通では、これらを含め約200名体制で AI 関連事業を推進しています。

■ 販売目標

2018年度までに「Zinrai」関連ソリューションで累計500億円